

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科
(医学博士課程)

平成 27 年 度 (4 月期入学)

第 2 次 学 生 募 集 要 項

【一 般 選 拔】

【外国人留学生特別選抜】

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科

専攻別入学者受入方針，教育課程編成方針，学位授与方針

【脳医科学専攻】

●入学者受入方針

21世紀に残された課題のうち神経系では、記憶や学習などの高次神経機能の解明やアルツハイマー病、統合失調症などの神経・精神疾患の克服が挙げられ、その解決のためには従来の知識や技術だけではなく幅広い総合的な知識が求められています。このようなテーマに果敢に挑み、社会に貢献しようという高い目的意識を持った学生の入学を期待しています。なお、選抜の基本方針としては、医科学研究者、高度先端医療人として世界水準の研究を行うために必要な英語能力並びに基礎研究・臨床研究に関する十分な素養を有しているかを重視します。

●教育課程編成方針

神経高次機能の解明や神経難病や精神疾患の克服には、遺伝子、分子から始まり細胞は基より、神経系に特異的な細胞間コミュニケーション、心理学、行動学まで理解し習得する必要があります。また、遺伝子改変動物の技術も必須になってきています。これらを基礎系7分野、臨床系6分野で分担し基礎知識や臨床に即した病態学に関する知識の教授と最新のトピックの紹介を組み合わせた講義と演習を行います。これらを通じて自分で実験を組み立て、実施し、論文にまとめ上げる能力が身につくカリキュラム構成になっています。

●学位授与方針

修了には、神経系に関しての臨床知識は基より神経解剖学、神経生理学、神経生化学、神経分子生物学、神経薬理学、神経病理学、臨床心理学、動物行動学を身につけていることが求められます。脳神経系のあらゆる諸課題に意欲的に取り組み社会に貢献できる人材を育成します。修了者には、博士(医学)又は博士(学術)を授与します。

【がん医科学専攻】

●入学者受入方針

今や日本人の死因の半数を占める「がん」の克服は、医学・医療に携わる者に課せられたもっとも大きなテーマです。本専攻では、この課題の克服のために、がんの病態解明・新規治療の開発に必要な分子遺伝学、生化学、免疫学、臓器別臨床医学など多方面から取り組み、様々な研究の機会を提供しています。こうした環境の下で多面的にがん研究に取り組む意欲あふれる若い人材を求めています。なお、選抜の基本方針としては、医科学研究者、高度先端医療人として世界水準の研究を行うために必要な英語能力並びに基礎研究・臨床研究に関する十分な素養を有しているかを重視します。

●教育課程編成方針

本専攻は、がん細胞学、がん制御学、機能再生学、がん分子統御学の4講座からなり、それぞれに3～5の専門領域の異なる分野が、独自のポリシーとアプローチに基づいてがん研究のエキスパートを養成しています。「がん細胞学」ではがん細胞の分化、発生、組織病理、浸潤のメカニズム、「がん制御学」では外科的処置を含めたがんの集学的治療やアイソトープを用いたがんの局在診断と分子標的治療、「機能再生学」ではがん病巣の除去に加えて、正常細胞・組織の再生を目指した遺伝子治療、細胞療法、臓器再建、「がん分子統御学」ではがん細胞におけるDNA修復機構の傷害、細胞内シグナル伝達の制御、転移やアポトーシスメカニズム、炎症性サイトカインの関与、がん幹細胞維持機構など、多面的に癌を理解・研究できるカリキュラムが構成されています。

●学位授与方針

修了するためには、がんの病態解明に必要な基礎的・臨床的テクニックを修得している、研究をデザインし、かつ、得られたデータを分析して論文をまとめることができる、がん治療の基本的ならびに最先端技術を理解し、かつ今後の進歩をフォローできる、などが必要です。これらの習得とともに癌診療の現場でのチーム医療や心のケアなどを含めた総合的癌診療を学ぶことで、癌の基礎研究から臨床の最前線での診療までを理解し、あるいは、貢献できる人材を育成します。修了者には、博士(医学)又は博士(学術)を授与します。

【循環医科学専攻】

●入学者受入方針

正常・疾患における病態生理を理解し、これを正しく制御する仕組みを構築する上で、循環医科学からの取り組みがとりわけ重要視されています。高齢化社会を迎えた我が国において遭遇する様々な疾病機構の解明と、これに対する手段の確立がいまだかつてないほど求められています。本専攻では、あらゆる疾患の基本となる循環医科学を基礎とした研究者を目指す医療人は勿論のこと、既に第一線で業務に携わる社会人、海外からの留学生を受け入れます。なお、選抜の基本方針としては、医科学研究者、高度先端医療人として世界水準の研究を行うために必要な英語能力並びに基礎研究・臨床研究に関する十分な素養を有しているかを重視します。

●教育課程編成方針

本専攻では、循環医学に関する教育、研究を効率的に推進することを目的に、従来の基礎・臨床の壁を取り払い、本分野での指導教員・研究者を集中的に配置しています。すなわち、所属研究分野が連携し、心臓・血管の生理生化学の分子機構、心血管作動性物質の生成、発信、受容、作用の仕組み、小児・成人心臓・血管病・腎臓病発症の分子機構・遺伝学、心臓・血管病・腎臓病に対する分子標的治療薬物、経血管的治療法、超低侵襲心臓手術法などに関する教育を行い、また、研究を指導します。さらに、分子情報に基づいた最適薬物治療の実践、心臓血管再生医療の確立など最新の知見なども学ぶことができます。

●学位授与方針

修了に至るまで、指導教員の連携により、研究アイデアの創出、実験、総合までをきめ細やかに指導します。修了後は、我が国における循環医学の未来創造に貢献してもらうため、ポストドクターとしての海外留学、国内医療関連機関での指導者、薬学系大学の教員、また民間企業での研究者など、として更にキャリアを積むためのポジションを設定します。あらゆる疾患の成り立ちの解明において、循環医科学における研究の寄与するところは大きく、幅広い分野での人材育成に努めます。修了者には、博士(医学)又は博士(学術)を授与します。

【環境医科学専攻】

●入学者受入方針

種々の感染症、環境汚染、薬物乱用等の公衆衛生上の問題、さらには健康と生活環境の関わりなど、広義の環境問題は今や世界的規模で解決すべき課題となっています。そのためには、世界に通用する新しい学際的予防医学及び社会医学研究を積極的に創造し、実践していく人材が必要です。本専攻では、医科学の理論及び応用を学び、発展させることによって、心身ともに健康な社会構築に貢献する意欲的な人材を求めています。なお、選抜の基本方針としては、医科学研究者、高度先端医療人として世界水準の研究を行うために必要な英語能力並びに基礎研究・臨床研究に関する十分な素養を有しているかを重視します。

●教育課程編成方針

本専攻は、「感染症制御学」と「環境社会医学」の2大講座からなっています。「感染症制御学大講座」は「細菌感染症制御学」、「ウイルス感染症制御学」、「寄生虫感染症制御学」からなり、細菌、ウイルス及び寄生虫の本体や病原性、それらが引き起こす疾患の制御や予防について、高度な専門能力の育成に努めています。また、「環境社会医学大講座」には、衛生学領野を扱う「環境生体分子応答学」、公衆衛生領野を扱う「環境生態医学・公衆衛生学」、運動に伴う姿勢制御を研究する「運動生体管理学」、法医学・法科学領域を研究対象とする「法・社会環境医学」、並びに内科学の立場から食や運動など生活環境との係わりを研究する「恒常性制御学」などがあります。各学生には、選択した研究テーマを専門とする複数の教員が指導にあたり、さらに上級生のシニアチューターがサポートします。また、研究科セミナーや国内外の学会・研修に参加することによって、環境問題を広い視野から深く学ぶことができます。

●学位授与方針

修了には、医科学研究者、高度先端医療人等として自立して活動するために必要な能力と、その基盤となる学識を身につけていることが求められます。具体的には、文献の精読や実験、論文作成を通じて学生の論理的な研究遂行能力の育成に努め、指導各教員同士の緊密な連携のもと、各領域の垣根を超えた総合的な指導を行います。修了者には、博士(医学)又は博士(学術)を授与します。

1 募集人員及び研究分野種別

(1) 募集人員

平成27年度(4月期入学) 64名

(2) 専攻, 大講座及び研究分野の種別

専攻	大講座	研究分野	指導教員	旧専攻部門
脳医科学	脳細胞分子学	脳細胞遺伝子学	河崎 洋志	細胞遺伝子学
		神経分子標的学	堀 修	解剖学第三
		分子遺伝学	村松 正道	生化学第一
	脳情報回路学	機能解剖学	尾崎 紀之	解剖学第二
		分子神経科学・統合生理学	櫻井 武	生理学第二
		神経発生学	佐藤 純	
	脳病態医学	脳老化・神経病態学	山田 正仁	神経内科学
		脳情報病態学	三邊 義雄	神経精神医学
		視覚科学	杉山 和久	眼科学
		感覚運動病態学	吉崎 智一	耳鼻咽喉科学
脳・脊髄機能制御学			脳神経外科学	
遺伝子改変動物学	遺伝子改変動物学	浅野 雅秀	動物実験学	
がん医科学	がん細胞学	組織発達構築学	井関 尚一	解剖学第一
		形態機能病理学	原田 憲一	病理学第二
		細胞浸潤学	川尻 秀一	歯科口腔外科学
		分子細胞病理学	大井 章史	病理学第一
		がん局所制御学	太田 哲生	外科学第二
	がん制御学	集学的治療学	並木 幹夫	泌尿器科学
		国際がん治療学		
		バイオトレーサ診療学		絹谷 清剛
	機能再生学	再生分子医学	横田 崇	分子病態医学
		分子移植学	藤原 浩	産科婦人科学
		細胞移植学	中尾 眞二	内科学第三
		機能再建学	土屋 弘行	整形外科学
		周術期管理学	谷口 巧	麻酔・蘇生学
	がん分子統御学	◇がん分子細胞制御学	後藤 典子	分子病態
			善岡 克次	シグナル伝達
		◇がん病態制御学	佐藤 博	細胞機能統御
			向田 直史	分子生体応答
		◇がん幹細胞学	須田 貴司	免疫炎症制御
			平尾 敦	遺伝子・染色体構築
			大島 正伸	腫瘍遺伝学
◇がん分子標的医療学		高橋 智聡	腫瘍分子生物学	
		源 利成	腫瘍制御	
		鈴木 健之	機能ゲノミクス	
	松本 邦夫	腫瘍動態制御		
	矢野 聖二	腫瘍内科		
循環医科学	血管分子科学	血管分子生物学		生化学第二
		血管分子生理学	多久和 陽	生理学第一
		血管新生・結合組織代謝学	竹原 和彦	皮膚科学
	血液情報学	血液情報統御学	和田 隆志	臨床検査医学
		血液情報発信学	稲葉 英夫	救急医学
	血管病態制御学	臓器機能制御学	山岸 正和	内科学第二
		血管発生発達病態学	谷内江昭宏	小児科学
		経血管診療学	蒲田 敏文	放射線医学
	心肺病態制御学		外科学第一	
	機能分子医薬学	分子情報薬理学	吉本 谷博	薬理学
医薬情報統御学	医薬情報統御学	崔 吉道	薬剤部	
医療経営学	医療経営学	長瀬 啓介	医療情報部	
環境医科学	感染症制御学	細菌感染症制御学		微生物学
		ウイルス感染症制御学	市村 宏	国際環境保健学
		寄生虫感染症制御学	所 正治	寄生虫学
	環境社会医学	環境生体分子応答学	西條 清史	衛生学
		環境生態医学・公衆衛生学	中村 裕之	公衆衛生学
		革新ゲノム情報学	田嶋 敦	
		運動生体管理学	藤原 勝夫	国際医療保健学
		法・社会環境医学		法医学
		恒常性制御学	金子 周一	内科学第一
		包括的代謝学	篁 俊成	
代謝生理学	井上 啓			
細胞代謝栄養学	太田 嗣人			

※研究分野のうち、◇印はがん進展制御研究所の研究分野を示します。
 ※募集人員には「外国人留学生特別選抜」の募集人員を含みます。

2 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法第83条に定める大学(医学, 歯学, 薬学(修業年限が6年である課程に限る。(以下「6年制」という。))又は獣医学の課程に限る。)を卒業した者及び平成27年3月31日までに卒業見込みの者
 - (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者(医学, 歯学, 薬学(6年制)又は獣医学を履修した者に限る。)及び平成27年3月31日までに授与される見込みの者
 - (3) 外国において学校教育における18年の課程(最終の課程が医学, 歯学, 薬学(6年制)又は獣医学に限る。)を修了した者及び平成27年3月31日までに修了見込みの者
 - (4) 我が国において, 外国の大学における18年の課程(最終の課程が医学, 歯学, 薬学(6年制)又は獣医学に限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって, 文部科学大臣が別に指定する当該課程を修了した者及び平成27年3月31日までに修了見込みの者
 - (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程(最終の課程が医学, 歯学, 薬学(6年制)又は獣医学に限る)を修了した者及び平成27年3月31日までに修了見込みの者
 - (6) 昭和30年4月8日文部省告示第39号により文部科学大臣の指定した者
 - ① 旧大学令(大正7年勅令第388号)による大学の医学又は歯学の学部において医学及び歯学を履修し, これらの学部を卒業した者
 - ② 防衛省設置法(昭和29年法律第164号)による防衛医科大学校を卒業した者
 - ③ 修士課程又は学校教育法(昭和22年法律第26号)第99条第2項の専門職大学院の課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者
 - ④ 前期及び後期の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し, 30単位以上を修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた者(学位規則の一部を改正する省令(昭和49年文部省令第29号)による改正前の学位規則(昭和28年文部省令第9号)第6条第1号に該当する者を含む。)で大学院又は専攻科において, 大学の医学を履修する課程, 歯学を履修する課程, 薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めたと認めた者
 - ⑤ 大学(医学を履修する課程, 歯学を履修する課程, 薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの及び獣医学を履修する課程を除く)を卒業し, 又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後, 大学, 研究所等において2年以上研究に従事した者で, 大学院又は専攻科において, 当該研究の成果等により, 大学の医学を履修する課程, 歯学を履修する課程, 薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めたと認めた者
 - (7) 学校教育法第83条に定める大学の医学, 歯学, 薬学(6年制)又は獣医学を履修する課程に4年以上在学した者であって, 本研究科が定める単位を優秀な成績で修得したと認めたとしたもの
 - (8) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学の大学院(医学, 歯学, 薬学(6年制)又は獣医学を履修する博士課程に限る。)に入学した者であって, 当該者を本研究科において, 大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたとしたもの
 - (9) 外国において学校教育における16年の課程(最終の課程が医学, 歯学, 薬学(6年制)又は獣医学に限る。)を修了した者, 我が国において, 外国の大学における16年の課程(最終の課程が医学, 歯学, 薬学(6年制)又は獣医学に限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって, 文部科学大臣が別に指定する当該課程を修了した者, 又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程(最終の課程が医学, 歯学, 薬学(6年制)又は獣医学に限る。)を修了した者であって, 本研究科において, 所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めたとしたもの
 - (10) 本研究科において, 個別の入学資格審査により, 第1号に定める者と同等以上の学力があると認めたとした者で, 平成27年3月31日までに24歳に達するもの
- ※1 上記出願資格の(6)の④, ⑤, (7), (8), (9), (10)に該当する者については, 「5 出願資格の認定」を参照の上, 出願資格の認定申請を行ってください。

- 2 上記出願資格の(7)は、本研究科への早期入学(いわゆる「飛び入学」)を指します。ここでいう「本研究科が定める単位」とは、該当者が在籍する当該大学学部の第4年次終了時までまでに修得すべき、卒業に必要な全ての単位を指します。

3 出 願 手 続

- (1) 志願者は、下記の出願書類を取りそろえ、一括して本研究科に提出してください。

入学志願票, 受 験 票, 写 真 票	本要項に添付の用紙 (様式1)
写真 (2枚)	縦4cm×横3cm, 正面向半身脱帽で出願日以前3ヶ月以内に撮影のもの。 裏面に志望専攻及び氏名を記入の上, 受験票及び写真票に貼ってください。
成績証明書	出身大学(学部)長が作成したもの。大学院修了(見込)者は、 <u>学部と大学院の両方</u> を提出してください。 ※和文又は英文以外で記載されているものは、和訳又は英訳を添付してください。 出願資格認定申請のために提出済の場合は、再度提出する必要はありません。
卒業(修了) 又は 卒業(修了) 見込証明書	出身大学(学部)長が作成したもの。大学院修了(見込)者は、 <u>学部と大学院の両方</u> を提出してください。 成績証明書に卒業(修了)又は卒業(修了)見込みであることが記載されている場合は提出不要です。 ※和文又は英文以外で記載されているものは、和訳又は英訳を添付してください。 出願資格認定申請のために提出済の場合は、再度提出する必要はありません。
入学検定料 (30,000円) 振込金証明書 (学内進学者及 び国費外国人 留学生は不要)	学内進学者(平成27年3月に本学の大学院博士前期課程又は修士課程を修了し、引き続き博士課程に進学する者)及び国費外国人留学生は、入学検定料の納入は不要です。 振込依頼書(様式2)に必要な事項を記入の上、「電信扱」が利用できる金融機関(ゆうちょ銀行、郵便局を除く)の窓口で納入してください。納入後、銀行領収印が押してあることを確認し「振込金証明書」をあて名票(様式3)の所定欄に貼付してください。「領収書」は、大切に保管してください。 ① 通常、金融機関の窓口営業時間は午後3時までです。また、土・日・祝日は休業となりますので、注意してください。 ② ATM(現金自動預払機)、携帯電話、パソコン等からは振り込まないでください。 ※出願書類受理後は、いかなる理由があっても入学検定料は返還しませんので注意してください。ただし、入学検定料の振込後、出願書類が受理される前に出願を取り止めた場合は返還手続を行うことができますので、下記担当まで連絡してください。なお、返還手続の際は「領収書(本人控)」及び「振込金証明書(提出用)」が必要になります。 (担当: 金沢大学財務部財務管理課出納係 電話 (076) 264-5058~5060)
あて名票	本要項に添付の用紙(様式3)
受験票送付用封筒	本要項に添付の封筒に362円切手を貼り、送付先を明記してください。
受験承諾書	本要項に添付の用紙(様式4) [在職のままでの在学希望者のみ提出] 所属機関長が作成したものを提出してください。ただし、臨床研修中の者は、所属している臨床研修センターに確認をお願いします。
教育方法特例 適用申請書	本要項に添付の用紙(様式5) [適用希望者のみ提出] 大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例の適用(P9 11(1)参照)を申請する者は、受験承諾書とともに提出してください。
履 歴 書	本要項に添付の用紙(様式6) [外国人留学生特別選抜の志願者のみ提出] 出願資格認定申請のために提出済の場合は、再度提出する必要はありません。

英語能力に関する証明書等	〔外国人留学生特別選抜の志願者のみ提出〕 TOEIC…TOEIC証明書（Official Score Certificate）の写し TOEFL…TOEFL公式スコア票（Official Score Report） 上記以外の英語能力検定等を受験している場合は、当該検定等のスコアの写しを提出してください。
出願資格審査結果通知の写し	〔出願資格の認定を受けた者のみ提出〕 「2 出願資格」(6)から(10)のいずれかにより出願資格の認定を受けた者は、出願資格審査結果通知の写しを提出してください。

- (2) 改姓（改名）により、卒業証明書、成績証明書等の氏名が異なる場合は、変更の事実を証明できる書類（戸籍抄本等）を添付してください。
- (3) **出願書類を郵送する場合は、書留郵便で、表に「大学院出願書類（医学博士）在中」と朱書してください。**
- (4) **出願書類の受理後は、いかなる理由があっても、入学検定料の返還、出願書類の返却、記載事項の変更はできません。**
- (5) その他
卒業見込み又は修了見込みの資格で出願し、本研究科に合格した者は、入学手続の際に医薬保健系事務部学生課医学学務係に最終の成績証明書及び卒業又は修了証明書を提出してください。

4 出願期間及び提出先

- (1) 出願期間
平成26年11月4日(火)～11月7日(金) 午前9時から午後5時まで
※郵送の場合は、11月7日(金) 午後5時までに必着とします。
- (2) 出願書類の提出先
〒920-8640 金沢市宝町13番1号
金沢大学医薬保健系事務部学生課医学学務係
電話 (076) 265-2121
e-mail t-igaku1@adm.kanazawa-u.ac.jp
ホームページ <http://www.m.kanazawa-u.ac.jp/entrance/index.html>

5 出願資格の認定

「2 出願資格」の(6)の④、⑤、(7)、(8)、(9)、(10)のいずれかに該当する者については、次の要領であらかじめ出願資格の認定を受けてください。

- (1) 提出書類
- ① 入学試験出願資格認定申請書（様式7、本要項に添付）
 - ② 出身大学(学部)長が作成した成績証明書
 - ③ 卒業証明書
 - ④ 履歴書（様式6、本要項に添付）
 - ⑤ 在職期間及び研究期間証明書（大学・研究所等発行のもの）
 - ⑥ 研究業績調書（様式8、本要項に添付）〔研究歴のない者は提出不要です。〕
 - ⑦ 論文、研究発表等の写し〔該当するものがない者は提出不要です。〕
- ※1 出願資格(7)に該当する者は、上記③、⑤、⑥、⑦の書類は提出不要です。
- 2 和文又は英文以外で記載されているものは、和訳又は英訳を添付してください。**
- (2) 提出期限
平成26年10月10日(金) 午後5時まで
※郵送の場合は、10月10日(金) 午後5時までに必着とします。

- (8) 提出先及び照会先
上記4(2)出願書類の提出先に同じ。
- (9) 結果通知
審査の結果は、出願期間前に本人あてに通知します。

6 選抜方法及び試験日時等

【一般選抜】

- (1) 入学者の選抜は、学力検査、成績証明書等の結果を総合して行います。
- (2) 募集人員に達しない場合でも、前項の選考の結果によっては、入学を許可しないことがあります。
- (3) 専攻科目は研究分野ごとに試験場が異なりますので、**必ず事前に各研究分野に問い合わせ確認してください。**

期 日	時 間	試験科目	試 験 場	備 考
平成26年11月20日(木)	10:00~12:00	外国語 (英語)	金沢大学医学類 教育棟	辞書の持込みは可。 ただし、電子辞書は不可。
	13:00~15:00	専 攻 科 目	研究分野が指定 する場所	志望した研究分野の教員が行う。 各研究分野の指示を受けること。

※外国語 (英語) の試験場は志願者数により変更することがあります。受験票とともに送付される「受験上の注意」及び試験当日の掲示を確認してください。

【外国人留学生特別選抜】

- (1) 日本国籍を有しない者で、入学後「留学」の在留資格が取得できる者を対象とします。
- (2) 入学者の選抜は、学力検査、成績証明書等の結果を総合して行います。
- (3) 募集人員に達しない場合でも、前項の選抜の結果によっては、入学を許可しないことがあります。
- (4) 「3 出願手続」の(1)に記載の「英語能力に関する証明書等」を提出することができない場合は、外国人留学生特別選抜を選択することはできません。
- (5) 外国人留学生特別選抜の試験科目は、「専攻科目」のみとなります。
- (6) 専攻科目は研究分野ごとに期日・時間・試験場が異なりますので、**必ず事前に各研究分野に問い合わせ確認してください。**

期 日	時 間	試験科目	試 験 場	備 考
研究分野が指定する期日・時間		専 攻 科 目	研究分野が指定 する場所	志望した研究分野の教員が行う。 各研究分野の指示を受けること。

7 合格者発表

発表日時 平成26年12月4日(木) 午前10時 (予定)

金沢大学医薬保健系事務部学生課医学学務係前に掲示及び金沢大学大学院医薬保健学総合研究科・医薬保健学域医学類ホームページに掲載するとともに、本人あてに通知します。

ホームページ <http://www.m.kanazawa-u.ac.jp/entrance/index.html>

8 入学手続等

(1) 入学手続

平成27年3月中旬(詳細は、平成27年2月中旬に通知予定)

※受験票は入学手続時にも使用しますので、試験終了後も大切に保管してください。

(2) 入学時に必要な経費

授業料等納付金

入学料 282,000円(予定)

授業料 半期分 267,900円(予定)(年額 535,800円(予定))

※1 学内進学者(本学大学院博士前期課程又は修士課程を修了し、引き続き博士課程に進学する者)からは入学料を徴収しません。

2 上記の納付金額は予定額であり、入学時または在学中に入学料・授業料が改定された場合には、改定時から新入学料・新授業料が適用されます。

9 長期履修制度について

本研究科では、職業を有している等の事情により標準の修業年限で修了することが困難な者を対象として、修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し修了することにより学位を取得することができる「長期履修制度」を導入しています。

本制度の利用を希望する場合は、医学学務係に相談してください。

① 対象となる学生

次の各号のいずれかに該当する者で、標準修業年限(4年)以内での修学が困難な事情にあるもの。

(1) 社会人有職者で、職務上の事情により、著しく学修時間の制約を受ける者

(2) 育児、介護等に従事している者で、その事情により、著しく学修時間の制約を受けるもの

(3) その他、本研究科においてやむを得ない事情があると認める者

② 長期履修の期間

5年、6年、7年、8年とします。

③ 長期履修が認められた場合の授業料について

$(\text{授業料年額} \times 4年) \div (\text{長期履修の期間}) = \text{長期履修の場合の年間授業料}$

10 金沢大学独自の奨学金制度(留学生対象)

金沢大学は外国人留学生を対象として、以下の2つの奨学金制度を設けています。

応募者を選考の上、受給者を決定します。

金沢大学学生特別支援制度外国人留学生修学支援奨学金	
申請条件	過去に本学に短期留学していた外国人留学生で、再び本学の正規生として入学した者
奨学金金額	最高25万円(年額)
奨学金支給期間	在籍期間中1回限り

金沢大学創基150年記念留学生支援奨学金私費外国人留学生学習奨励費	
申請条件	本学に半期以上在籍する予定の私費外国人留学生で、学業、人物ともに優れている者
奨学金金額	18万円(年額)※半期ごとに9万円給付
奨学金支給期間	課程修了まで(留年期間は除く)

詳しくは以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ie/j/abroad/scholarship.html>

11 その他

- (1) 本研究科では、大学院設置基準第14条により、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行います(14条特例)。この特例の適用を希望する者は、様式4及び様式5の両方を提出してください。

参考：大学院設置基準第14条(昭和49年文部省令第28号抜粋)

第14条 大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

- (2) 出願資格(7)により、大学の正規の課程を卒業せずに入学した者の学部生としての学籍上の身分は、退学となります。従って、各種国家試験等の受験資格で、大学の学部卒業が要件になっているものについては受験資格がないこととなりますので、十分注意してください。

12 個人情報の保護について

金沢大学では、「国立大学法人金沢大学個人情報管理規程」等を制定し、本学が保有する個人情報の適正な管理と保護に努めています。

本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報及び入学手続き時に提出いただく全ての書類に記載されている個人情報は、次の業務で利用します。

- (1) 入学者選抜及び入学手続きに関わる業務
- (2) 入学後の学籍管理、修学指導に関わる業務及び健康診断等の保健管理に関わる業務
- (3) 入学後の本学ポータルサイト利用、学内LAN利用、図書館利用及び図書貸出し等の学内サービス業務
- (4) 入学料免除、授業料免除、奨学生選考等の修学支援に関わる業務
- (5) 入学料・授業料の納入に関わる業務及び収納業務を委託する金融機関での必要な業務
- (6) 入学者選抜に関する個人が特定できない形で行う調査研究業務
- (7) 修了生に対する学習成果等調査(アウトカムズ・アセスメント)、同窓会活動への支援等に関する業務
- (8) その他、個人が特定できない形で行う統計処理業務

募集要項請求方法

この募集要項の郵送を希望する場合は、封筒の表に「大学院医薬保健学総合研究科（医学博士課程）第2次学生募集要項請求」と朱書し、返信用封筒（角型2号、205円分の切手を貼付し、受信者の郵便番号・住所・氏名を明記したもの）を同封の上、下記に請求してください。

速達での郵送を希望する場合は、485円分の切手を貼付してください。

金沢大学医薬保健系事務部学生課医学学務係

〒920-8640 金沢市宝町13番1号 TEL (076) 265-2121

ホームページ <http://www.m.kanazawa-u.ac.jp/entrance/index.html>